

平成22年度第2回大分県食育推進会議

日 時：平成22年12月15日（水）10：00～12：00
場 所：大分文化会館 第1小ホール

～次 第～

- 1 大分県食の安全確保推進本部食育専門部会長
生活環境部理事兼審議監 あいさつ
- 2 議事
 - (1)「第2期大分県食育推進計画（仮称）」素案
について
 - (2)今後のスケジュールについて

《主な意見》

「第2期大分県食育推進計画（仮称）」素案について

○ 序章について

- ・食が軽視されているなか、正しい箸の持ち方やごはんのみそ汁の並べ方などをただ啓発するのではなく、なぜマナーを身につけることが必要なのか、その伝え方を工夫する必要がある。
- ・「きちんとしたお箸の持ち方をしていれば、大人になって誰と食事をしてもしげをとらない。どんな場所でも気後れしない。」と講習会で子どもたちに教えている。
- ・「箸が上手に持てるペンの持ち方も上手になり、頭がよくなる。上手な持ち方は紙飛行機を飛ばす時につまむ要領で持つとよい。」と年寄りから言い聞かされてきた。科学的根拠はわからないが、それを信じて自分も伝えてきてよかった気がする。
- ・昔からの言い伝えなど聞いたことのない若いおかあさんたちがいろいろな世代と交わる場を設けるとよい。
- ・5歳児で箸の持ち方が下手な子は、掻き込んでいる。箸の使い方が上手だと自信を持って食べることができる。家庭でもちょっと意識するとよくなる。子どもたちが生きていくうえで、自信を持つという点でも箸の持ち方やマナーは大切。

- ・給食で器を持たず、置いて食べる犬ぐいが多い。器が持ちやすいことも大切。
 - ・逆に箸の持ち方の下手な例を見せて、かっこ悪いと思わせるのも一つの手。
 - 第2章について
 - ・市町村もいろいろな取り組みをしているので、その部分の記載が少ないと感じた。
 - 第3章について
 - ・P28の役割のところ、企業が地域の中に含まれているが、青・壮年期の食育は、非常に難しく、企業のトップの考え方によるところが大きい。食、健康があってこそその企業の生産性なので、働く世代の食育の推進にはトップの意識改革が必要。企業を地域の中に含めた位置づけでは弱すぎる。
 - 第4章について
 - ・食品表示のわかりやすい啓発をお願いしたい。
 - ・P38に数値目標で低出生体重児の割合があるように、若い女性はきちんと食べないといけないので、女性のやせの割合が必要ではないか。
 - ・P42の3歳児健診における平均う歯数全国最下位という現状を知らない人が多い。
- 祖父母のおやつとの与え方など関係してくるので、県民に周知して欲しい。
- ・TPP も含めて輸入が自由化し、安かろうに走れば、県農産物の学校給食への利用は減っていく。価格も大事だが、値段が合わないから外から入れましょうでは何のために食育を推進しているかわからない。やはり地元のものという観点から価格を見直し、生産者も努力はするが、保護者も含めて行政が補填してでも進めていかないといけないのでは。
 - ・P45にちょっと記載されているが、きちんとした食生活を送ることは学力アップにつながることを食育に関する会議でないところでも周知していくことが必要。子どもたちへの食育については、多方面からアプローチをお願いしたい。
 - ・ヘルシーな外食とはどんなものか。カロリーを抑えて、味がうすいでは、そのようなものを買う人はいないので、業者はなかなか取り組まないのではないか。
- 推進方法について
 - ・関係部署に広報関係がないので難しいかもしれないが、もっとやわらかい、気楽な目線の広報はできないか。若い人はネットを使うので、そういうのを活用したわかりやすいやさしい啓発をしてはどうか。
 - ・健康が当たり前の人に「健康や食のことを考えて」とどう伝えるか。例えば、若い女性には、食事をきちんととれば「髪がきれいになる」とか、男子なら「体力がつく」など今関心があることから入っていくことが必要。10代20代と各世代に応じた視点ですすめてはどうか。